

# 特 別 仕 様 書

## 【配給水管布設替工事】

### 第1章 総 則

- ・本工事の施工は、佐賀県県土整備部「土木工事等共通仕様書」、「土木工事施工管理の手引き」日本水道協会「水道工事標準仕様書」に基づいて実施すること。上記仕様書に対する特記・追加事項は本特別仕様書による。なお、本仕様の監督員とは、本工事の監督を行う企業団職員をいう。この仕様書に定めのない事項や、工事の施工にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議すること。

### 第2章 工 事 内 容

- ・工事名 市道花島大日線外 配給水管布設替工事
- ・工事場所 武雄市武雄町大字永島(花島区) 地内
- ・工事概要 配水管布設替工事 PEφ75 L=235.45m(L'=235.5m)  
PEφ50 L=4.21m(L=4.21m)  
給水切替 N=9 箇所
- ・工事数量 工事数量は、別紙の工事数量表の通り。

### 第3章 施 工 条 件

- ・本工事期間は、契約締結の日から令和 年 月 日までとする。(雨天・休日等を見込んでいる)

### 第4章 現 象 条 件

- ・本工事の着手に先立ち、道路管理者及び警察署に届出を行い、工程計画、安全対策、生活道路確保等について十分協議すること。また、地下埋設物の事前調査を行い、埋設物の管理者と綿密な連絡・調整を行い、施工方法、埋設物防護方法等について協議した上で、事故防止に努め施工すること。設計図示以外の埋設構造物の存在が判明・発見された時は、監督員に報告しその指示を受けること。
- ・本工事における建設副産物のうち、廃棄物処理法の対象物処理は、法定の基準及び「佐賀県農林建設副産物処理方針」により自ら処分すること。尚、自ら処分できない時は、法定の産業廃棄物処理業の許可を受けたものの中から許可の範囲及び取り扱える書類等を確認の上、その処理を委託することができる。
- ・建設副産物の処理条件は、下記「公共工事建設副産物特記仕様書」を、再生資材の搬入条件は、下記「公共工事再生資材使用特記仕様書」をそれぞれ参照のこと。
- ・再利用施設から材料を搬入する場合、「再生資材使用確認表」を品質管理書類に添付すること。
- ・再生資材の利用については、「佐賀県農林部建設副産物再生利用方針」に基づき運用する。
- ・再生石材は、「佐賀県建設副産物再生施設」の指定を受けた工場で再生されたものを利用する。また、再生加熱アスファルトについては、「佐賀県副産物再生施設」の指定を受けた工場で生産されたものを利用する。但し、これより難しい場合、発注者と受注者が協議するものとする。
- ・産業廃棄物の処分場（最終処理）への運搬・処理は、「産業廃棄物処理法」に元づくものとする。処理の確認については、マニフェスト伝票、写真等によるものとする。

---

(様式—3) 建設副産物

公共工事建設副産物処理特記仕様書

- 1 工事名 市道花島大日線外 配給水管布設替工事
- 2 工事場所 武雄市武雄町大字永島(永花島区) 地内
- 3 処理条件 上記工事により発生する建設副産物については、  
(☒指定 ・ 任意) 処分とする。 (いずれかに☒印)
  - ・ 建設副産物の種類 (いずれかに☒印)  
☒建設残土 ☒コンクリート塊 ☒アスファルト塊 その他(具体的名称 : )
  - ・ 処理の区分 (いずれかに☒印)  
(他の工事現場(建設残土に限る) ☒中間処理施設 最終処理施設) への搬出
  - ・ 運搬数量 数量総括表による
  - ・ 運搬距離 残土: 片道L=10.4km  
コンクリート及びアスファルト塊: 片道L=3.0km
  - ・ 運搬先名称等 残土: 真生工業-----多久町多久町 3932-77  
コンクリート及びアスファルト塊: 大坪石材-----武雄市武雄町永島 17945
- 4 条件変更 処理条件に変更が生じた場合、発注者、請負業者の協議により適切に設計変更を行う。

---

(様式—5) 再生材特記仕様書

公共工事再生資材使用特記仕様書

- 1 工事名 市道花島大日線外 配給水管布設替工事
- 2 工事場所 武雄市武雄町大字永島(花島区) 地内
- 3 再生資材の種類 (いずれかに☒印)  
☒再生石材 ☒再生加熱アスファルト混合物 ・ その他 ( )
- 4 使用数量 数量総括表による
- 5 条件の変更 処理条件に変更が生じた場合は、発注者、請負業者の協議により適切に設計変更をする。

---

第5章 指定仮設

- ・ 指定する仮設工事を変更して施工する場合は、設計図書等を提出して監督職員の承諾を得ること。
- ・ 土留工は、「建設工事公衆災害防止対策要綱」、「労働安全衛生規則」に従い必要な方針を講ずる事。また、土留工を必要としない掘削深であっても、土質不良等の理由で、崩壊や近隣家屋等への影響が出ると判断される場合においては、早急に監督職員と協議すること。
- ・ 土留工は常時点検を行い、用部材変形や緊結部のゆるみ等早期発見に努力し事故防止に努めること。特に雨天時工事を中断している時でも巡回を怠ってはならない。

第6章 工事用地等

- ・ 請負者は、工事の施工前に、工事用地の確保に努めなければならない。また、土捨て場位置を指定しない場合は、請負者の責任において土捨て場の確保を行う。

- ・請負者は、住民に工事の内容、施工期間、環境対策等を説明し、協力を得るよう努めなければならない。

## 第7章 工 事 用 材 料

- ・この工事で使用する主要材料の規格等は、設計図書に示すとおりである。
- ・工事用材料については使用前に見本、カタログ及び試験成績書等を監督員に提出して承諾を受けること。  
ただし試験成績書等については、J I S規格の証明がある場合は、この限りではない。

## 第8章 施 工

### 1. 一般事項

- ・本工事の水準点は、図面に示す **BM** を使用する。また、着工前に設計図記載の標高、路線縦断の再測量を行い、図書との差異がないか確認し、差異のある場合は書面にて監督員と協議すること。
- ・本工事の施工は、交通安全上、覆鋼板等の必要資材や交通誘導員の準備が完了しなければ着手できない。

### 2. 土 工

- ・掘削時は、地上・地下施設に十分注意しながら作業を行うこと。また、地下埋設物と交錯する部分は、人力掘削にて特に丁寧に施工し、埋設物に損傷を与えないようにすること。
- ・掘削延長は、原則として当日中に管布設及び埋戻し、仮舗装が完了する範囲とする。当日中に仮舗装が出来ない場合、監督員の下承の上、適切な表示を行い、車輛及び通行人等の危険防止に努めること。
- ・掘削中に土質変化が生じた場合や埋設物を発見した場合は、監督員に報告し、指示に従うこと。また、湧水のある場合は、排水器具を用い湧水を完全に排除した後施工を行うこと。
- ・学校、病院、工場等の出入口及び一般家屋に接して掘削する箇所においては、必要に応じ交通に対して安全な構造と幅員を有する仮道等を設けること。
- ・アスファルト舗装等の取壊しは、アスファルトカッター等を用い切り口が粗雑にならないようにし、他の部分になるべく影響を与えないようにすること。

### 3. 埋 戻

- ・埋戻しは、指定された埋戻し材により十分なる締固めを行いながら、埋戻しを行うこと。舗装道にあっては、上層路盤以下を再生クラッシャーランにより埋戻しを行うこと。また、片埋めにならないよう巻出し厚30cm、締固め厚20cmとなるよう、十分締固めること。その際、本管その他の構造物に損傷や本管移動をしないよう注意して施工すること。
- ・管下端や側部、埋設物の交差箇所は埋戻し突固めを特に入念に行い、沈下しないよう施工すること。

### 4. 路面復旧

- ・施工期間は、管理設後道路開放前に、密粒度アスファルト舗装にて仮舗装を行うこと。給水工事完了後、設計図書に基づく舗装構成で舗装を行うこと。また、路面の常時点検や清掃を行い、常に路面状態を良好に保つこと。万一路面陥沈や不陸を生じた場合には、直ちに所定の舗装材を敷均し路面を整理すること。
- ・掘削、埋戻し等の施工中の不備及び埋戻後路面の維持管理の不備により復旧幅以上に舗装の影響がある場合は、監督者の指示により請負者の負担において復旧すること。

### 5. 鉛管更新工事

- ・鉛管更新工事とは、配水管から止水栓までの間に使用されている鉛管の布設替および給水装置成工届けの作成をするまでいう。

- ・更新工事にあたっては、止水栓付近を試掘し、鉛管使用の有無を確認すること。

## 6. 路面覆工

- ・覆工板は、目的荷重に十分耐える資材を用い、跳ね上がらないよう完全に取付けること。路面勾配がある場合、覆工受桁に荷重が均等に掛かる様にし、受桁が転倒しない構造とすること。また、覆工板表面は滑止仕様とし、路面と同一高さで取付けること。万一、同一高さとすることが困難な場合は、覆工板と在来路面の取合いを路面となじみよく取付け、通行上支障のない様にすること。
- ・覆工板は常時点検を行い、良好な状態を保ち通行の安全に努めること。

## 7. 残土処理工

- ・残土処理は、特に指示のない限り任意処分であり、処分先について、監督員に報告すること。また運搬に当たっては、沿道住民に迷惑がかからないよう注意すること。

## 8. 水替工

- ・工事区域内は、排水を完全に行えるよう十分な水替設備を設け、水を滞留させないよう注意すること。水替え設備、放流設備および流下状況等は常時点検を行い、排水が附近住民や通行人に迷惑とならないよう注意すること。また、冬季においては、路面の凍結防止に注意すること。

## 9. 弁栓室工

- ・止水栓函等の据付は、沈下・傾斜および開閉軸の偏心を生じないように入念に施工すること。また、鉄蓋類は、構造物に堅固に取付け、路面に対して不陸なく据付けること。

## 10. 伏越工

- ・伏越工は、施工前に関係管理者と十分協議し、指定された防護を行い確実な埋戻しを行うこと。
- ・湧水に対しては、特に水替えを強化し土砂の回込み等の起こらないよう注意すること。
- ・締切、仮排水の構造等は、関係管理者と協議をした後、流水に支障なく、かつ降雨による増水をも考慮のうえ堅固に構築し、予備資材を準備して万全を期すること。

## 11. 給水工事

- ・給水装置の布設替は、配水管から止水栓までとし、材料は設計図書のとおり水道協会の検査合格品を使用すること。また、施工前に口径および位置等十分に調査しておき、給水管は既設管と同口径（最小口径は20mm）とする。ただし口径の変更がある場合は、監督員より指示をうけること。

## 12. 切替時期および断水

- ・給水管洗浄後、給水管の切替を行うこと。この場合断水時間は、あらかじめ需要家に連絡し、迷惑にならない様、出来るだけ短時間で施工すること。

## 13. 分水栓建込および不断水穿孔

- ・分水栓および不断水穿孔の施工が必要なときは、監督員と協議すること。

## 14. 出水の確認

- ・給水装置切替完了後は、必ず水の出を確認すること。

## 15. 給水装置施工申請書作成としゅん工図作成について

- ・施工完了後は、給水装置の変更箇所を給水装置施工申請書に記載し、監督員へ提出すること。また、しゅん工図は1:500に各戸の引込位置、メータ位置、口径、水栓番号を記入する

## 16. 一般事項

- ・本工事において建設機械を使用する場合は、原則として「排気ガス対策型建設機械指定要綱」に基づき指定された排気ガス対策型建設機械を使用すること。
- ・この工事の施工のため付近の建物又は構造物に沈下や損傷を与える恐れのある時は、事前に監督職員の立会を受けて必要な調査書、測量図、写真等の資料を作成し、監督職員に提出すること。
- ・構造図、土工図等、標準図が現地と一致しない場合や、何らかの理由により変更の必要がある場合は、監督員と協議のうえ処理するものとする。
- ・工事期間中の交通止及び迂回路は、各要所に標識等を表示し、安全に十分留意すること。
- ・各戸毎に埋設深度と給水管布設状況がわかるように工事写真を入念に撮影すること。
- ・工事施工には、最高の技術を発揮し、最高の施工を行い、出来る限り短時間の間に工事を行うものとし、通行制限等による地元住民の不便を軽減すること。第三者に被害を与えた時や紛争をおこした時は、すべて請負者が責任を持って解決すること。
- ・施工中は電話、地下ケーブル線などの地下埋設物には注意しながら丁寧に施工し、事故が発生したときは、請負者において処理しなければならない。
- ・請負者は、事故や第三者に損害を与えた場合は、直ちに監督員に通報するとともに、監督員が指示する期日までに、事故報告書を出さなければならない。
- ・請負者は、支給材料の受渡し後において、破損または損傷した場合は現物で弁償すること。
- ・現場代理人、主任技術者等のうち、工事の施工または管理に関し著しく不相当と認められる者があるときは、その理由を明示してその変更を求めることがある。
- ・請負者は、騒音規制法、振動規制法を遵守し、騒音、振動の発生をできる限り防止し、周辺的生活環境の保全に努めなければならない。

## 第9章 定めなき事項

この仕様書に定めなき事項、又はこの工事の施工に当り疑義が生じた場合には、必要に応じて監督職員と協議するものとする。